

第5回新居浜市長期総合計画策定市民会議保健福祉部会会議録

- 1 日 時 平成22年4月21日(水) 19:00～20:15
- 2 場 所 総合福祉センター 4階 研修室3
- 3 出席者
- 委員 ○部会長 井田 仁美 ○副部会長 加藤 照雄
- 河端 幸枝 ○白石 文男 ○田所 広文 ○田那部 和明
- 野口 幹代 ○渡邊 照子
- (欠席) ○菅 敏子 ○平田 ヤエ子
- 事務局 ○専門部会長 近藤 清孝 ○専門部会副部会長 神野 洋行
- 推進員 曾我部 康志、岡 素子、岡松 良二、山地 義之
- 佐々木 文良、黒河 徹、高岸 秀明、加藤すみれ
- まちづくり担当 高本 光、相坂 祐介
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 事 (1) 基本計画素案について
- (2) その他

井田部会長	《あいさつ》
事務局	<p>【委員の出欠状況】</p> <p>委員の出欠状況は、委員10名のうち、出席者8名、欠席者2名であることを報告</p>
井田部会長	まず、長期総合計画策定に係る基本計画の全体像について説明願います。
事務局	《長期総合計画策定に係る基本計画の全体像の説明》
井田部会長	<p>次に、「基本計画素案」について、意見交換をしていきます。施策は6つありますので、一括して説明を願い、その後、意見交換をすることにします。</p> <p>まず、保健センター関係の「健康づくりと医療体制の充実」について、説明願います。</p>

事務局	<p>《健康づくりと医療体制の充実について説明》</p> <p>《地域福祉の充実について説明》</p> <p>《児童福祉の充実について説明》</p> <p>《障がい者福祉の充実について説明》</p> <p>《高齢者福祉の充実について説明》</p> <p>《社会保障の充実について説明》</p>
井田部会長	<p>保健福祉に関する6つの施策大綱について、説明をいただきましたが、これから意見交換します。全体を通して、ご意見があれば、お願いいたします。</p>
野口委員	<p>健康づくりと医療体制の充実について、1歳6か月児健康状況等把握率の目標値が95%となっているが、残りの5%は、どんな感じか。</p>
事務局	<p>連絡を取っているが、都合がつかない、連絡が取れない等で、状態が把握できない方が若干いる。100%を目指して活動をしているが、出来る範囲の目標とした。</p>
野口委員	<p>地域福祉の充実について、新居浜市社会福祉大会・生き生き幸せフェスティバル参加者数を2,550人から6,000人に、いきなり引き上げたのは何故か。</p>
事務局	<p>減少傾向にあるのを元に戻し、また上乘せしていこうとしている。これは、必ずしも不可能な数字ではないと思う。</p>
田那部委員	<p>知恵をしばってやっていく必要がある。駐車場も無いため、今のままでは厳しい。</p>
事務局	<p>長期総合計画は10年を考えているため、この位の目標数値となる。</p>
田那部委員	<p>内容の魅力であり、全市的に考えていくことが大切である。関心を持たない人を如何にひきつけていくかが大事である。</p>
河端委員	<p>毎年、進歩が感じられない。同じことの繰り返しで、魅力がない。もっと魅力のあるものにならないと、架空の人数をあげても仕方がない。</p>
井田部会長	<p>なかなか目標値は厳しいようですが。</p>
田那部委員	<p>このような形を続けていくのかどうかから考えていく必要がある。行政の地域福祉計画、社会福祉協議会の地域福祉活動計画があるが、</p>

事務局	<p>この連動の中で考えていく必要があるのではないか。</p> <p>社会福祉協議会が中核になっていかななくてはならないと思うし、地域福祉活動計画の抜本的見直しも必要である。</p> <p>今年、小学校区でミニ健康まつりを行うが、校区の人の健康意識の向上を図らなくてはならないと考えている。</p> <p>生き生き幸せフェスティバルは、その集大成としてのイベントとしてとらえ、市民の意識も行政の取組も変えていく必要があると思う。</p> <p>今から高齢化が進み、10年先は団塊の世代が70歳になる、そういったなかで、これまでの一か所での実施形態でいいのかどうか検証していかななくてはならない、高齢者には、遠くへは行けないが近くなれば行けるといふ方もいるため、各地域での特色ある取組のなかで自分の健康を見直していただく機会を多く持たないと、なかなか人は増えないと思う。回数もさることながら人数も増やしていった自分の状態を検診していただく、新しい取組が必要になってくるように思う。</p> <p>この部分については、もう一度検証したいと思う。人数をこのままとするには1回の実施では難しいだろう。広域的に規模の大きいものを1か所でするのは、今後難しくなるだろうと思う、各地区で地域密着型のイベントを行う草の根的に展開していった、総数が増えていくという姿になるのではないかと思う。そこらあたりの考え方を整理した上で、表現の仕方を考えたい。</p>
野口委員	<p>児童福祉の充実で、放課後児童クラブと放課後子ども教室の違いは何か。休日保育実施箇所1か所の計画は、どこか具体的にどこにあるのか。要保護児童対策地域協議会の実務者会議とは、どのようなものか。</p>
事務局	<p>放課後児童クラブは、福祉の分野で、学校が終わった後、最大18時まで、保育所的な要素で小学校低学年を預かっている。家庭に帰っても保護者が居ないような児童を預かるものであり、保育に欠かせないと預かれない。放課後子ども教室は、社会教育の分野で、同じように校区において、公民館等で全小学生を対象に、放課後の居場所づくりを中心に考えている。今後は、これらをタイアップして、すべての子どもに居場所を提供していかななくてはならないと思う。</p> <p>休日保育の実施場所は決まっていない。定数は10名程度で、どこかの保育所など、既存の施設を使って実施したい。</p>

	<p>要保護児童対策地域協議会には、所属団体の長が参加する会、課長など実務者の会及び個々のケースで民生児童委員や小学校の担任などに参加してもらうケース検討会議があるが、ケース検討会議を充実したものにするためには、各団体が日ごろからのコミュニケーションをとっておくことが大切である。そこで、実務者会議を定期的に行い、要保護児童対策地域協議会が円滑に行える環境を整備し、ケース検討会議がタイムリーに実施できるようにしたい。</p>
野口委員 事務局	<p>障害者福祉の充実で、就労移行支援事業所とは何か。 障害者の就労形態として、最終的には一般就労であるが、そこに至るまでの橋渡しをするような事業所である。</p>
	<p>たとえば、どんでんどん、わくわくクラブ、ワークチームゆい、わかば共同作業所などがある。</p>
野口委員	<p>移行しているのか。</p>
事務局	<p>件数は多くないが、移行している。</p>
白石委員	<p>障がい者団体に対する支援について、毎年、補助金申請をして受けているが、この申請内容の簡略化を図ってほしい。審査を軽くという意味ではなく、文章化し、プレゼンテーションをする大変さがある。</p>
事務局	<p>補助金公募制度については、3年に一度は見直しをすることとなっており、今年度が3年目であるため、従来どおりとなる。申請団体によっては、内容をしっかり書いてきて、申請文書の簡素化を望まないと思われるケースもあるが、なるべく簡素化して分かりやすくするよう考慮して見直しを進めたい。</p>
	<p>具体的な見直し内容を提案してもらえば、その点も考慮したい。見直しは、来年の2月から5月頃になると思う。</p>
事務局	<p>先ほどから、語句が分かりにくいという意見が出ているが、最終的には、市民に分かるように、分かりにくい語句には注釈を付けるよう考えている。</p>
野口委員	<p>高齢者福祉の充実について、施設・居住系サービスのベッド数の目標値1, 500台について、具体的にどういう施設のことがか。</p>
事務局	<p>第4期介護保険事業計画で小規模の特別養護老人ホーム、グループホーム、介護サービスが受けられる高齢者専用賃貸住宅などの整備を進めている。この整備計画に対して、事業者の参入があり進んでいく</p>

野口委員	<p>ことになるため、経過を見ながら進めていきたい。</p> <p>社会保障の充実について、活動指標の介護相談員数だが、自分は介護相談員として5期目だが、同期に就任した人が残っていない状況である。もっと市のバックアップや誇りの持てるような研修の実施などを望みたい。30人位はいるだろうし、特養やグループホームくらいしか行けていない状況もある。他にも行くべき場所もあると思うので、頑張ってもらいたい。</p>
渡邊委員	<p>健康づくりと医療体制の充実について、食育の普及啓発活動の現況106回は、何処でどのようにしているのか。</p>
事務局	<p>現況値は、食生活改善推進協議会にお願いしているものや保健センターでしているものすべてを含んでいる。</p> <p>計画値は、今後、保育所等に保健センター事業として回り、親と子を含めた食育を考えている。10年後には、すべての保育所と市立幼稚園を加えて136回としている。</p>
渡邊委員 事務局	<p>保育園児のお母さんは、食育に興味を示してくれないですね。</p> <p>試食会や懇談会を利用するとか、食育以外での訪問も実施しているため、これらの一つとして食育を取り上げていただくようにする。小さい時からの食育ということで、保育所を対象とした。</p>
井田部会長	<p>保育所の立場から言えば、かなり以前から食育に取り組んでおり、畑で作って、自分たちで調理して食べるなどしているが、保育所で活発にすればするほど家庭ではしなくてよいといった傾向も無くはない。如何に家庭を振り向かせていくかが課題である。何もかもすることで、親を安心させてしまうことにもなるといったことが現実問題としてある。</p>
渡邊委員	<p>ある子どもの居場所づくりの現場では、朝食を食べていない子どもが沢山いるといった状況もある。</p>
事務局	<p>継続して取り組んでいかななくてはならない課題ではあるが、保育所も学校も食育だけに関わっていける状況にはなく、もっと色々な躰に関わっていかななくてはならないという問題もある。食育だけに関われるなら、もっと親と関わって朝食を食べていないといった問題にも対応できると思うが、難しい状況である。</p>
野口委員	<p>基本は、食べることだと思うので、徹底して取り組むことも大切で</p>

事務局	<p>はないかと思う。</p> <p>学校でも、取り組んでいく課題であり、継続していかなくてはならないと思う。</p>
河端委員	<p>これからの5年、10年のことをするのに、今のことでやっという感じを受ける。</p> <p>子どもと高齢者が一緒になって過ごせるモデル地域をつくるとか、それが良かったらどんどん広げていくなどということをしてほしい。</p> <p>前にも言ったが、子宮頸部がんの予防接種についても、後々のことを考えると、今投資するほうが安くつくと思うので、計画に盛り込んでほしい。</p> <p>高齢者の施設に入ると40万円から50万円かかると聞くが、市民は分かっていないだろうし、本人も楽しくないと思う。市民に知らせる義務があるのではないか。</p>
事務局	<p>お年寄り子どもという観点、地域福祉の充実のなかで、様々な問題を単体で解決することが難しいため、社会福祉協議会や民生児童委員などの地域において福祉活動を担っている団体が共同で問題解決を図っていくという取組において、地域特性のあったまちづくりを行うなかで考えていきたい。</p> <p>子宮頸部がんの予防接種については、無料でということと思うが、今有料での接種ができる状況にはあるため、財政的なものも含めて検討していきたいと思う。</p> <p>高齢者の施設に入ると40万円から50万円かかるということについては、社会保障の充実のなかの介護給付適正化の推進として表現している。具体的には、今年から介護費用の通知を出したいと考えている。</p>
井田部会長	<p>現実的にハードな面とソフトな面、これだけのことを計画していくと、お金もかかるが人材の確保も大変になってくると思う。課題は沢山あると思う</p> <p>他にないようであれば、次に移ります。</p> <p>次の議題 「その他」について、事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>次回の保健福祉部会の開催日について、7月の予定となっているた</p>

野口委員	<p>め、少し期間が空きますので、次期開催日は、事務局と部会長、副部会長で協議して決定させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>早めに知らせてほしい。</p> <p>《異議なし》</p>
事務局	<p>次期開催日については、決定次第、案内を差し上げますので、よろしくをお願いします。</p>
井田部会長	<p>それでは、これで、保健福祉部会を終了させていただきます。本日は、大変ご苦勞様でした。</p>